

【特色ある学校づくり・環境教育】

地域人材を生かした学校づくり

守谷市立御所ヶ丘中学校

1 はじめに

本校は、昨年度よりインクルーシブ教育システム構築に係る研究を御所ヶ丘中学校区4小中学校で取り組んでいる。本校の特色は、インクルーシブ教育システム構築の考え方を全教育活動に取り入れ、学校長の教育理念である「すべての子どもたちが特別な存在」、「人は支えられてこそ人となる」を具現化して実践しているところにある。インクルーシブ教育の究極のねらいは共生社会の構築にある。地域を含めた学校内外の物的、人的教育資源を効果的に活用し、生徒の支援にあたっていくことが大切である。本年度はその基盤づくりとして、地域人材を招聘する等、地域とのかかわりを深めていく活動を行ってきた。

2 実践 「心の教育推進集会」

(1) 実施計画

① ねらい

地域の方の話を聞いたり共に活動したりすることを通して、生徒一人一人に思いやりの心を育て、共生社会の構築をめざす。

② 期日 2 学年 1 1 月 1 7 日 (月) 5 校時

3 学年 1 2 月 8 日 (月) 5 校時

1 学年 1 2 月 1 5 日 (月) 5 校時

③ 場所 体育館フロアー G T を囲む (U の字) 形態

④ ゲストティーチャー 山口 広太さん (本校出身、御所ヶ丘地区在住)

支援者 水海道第一高等学校 沼田 吉弘先生 (守谷高校時代の恩師)

介助 山口モト子さん (お母様)

⑤ その他 事前打ち合わせを綿密に行う。

病気については、病名を含め悲観的な説明はしない。

(2) 集会の実際

本集会では、本校出身の山口広太さんをゲストティーチャーとして招聘した。山口さんは、筋力が徐々に弱まっていく障がいがあり、現在は呼吸器と車椅子を使って生活をしている。長時間話をすることは困難であるが、生徒たちのために声を振り絞って話してくれた。

「自分の存在をみんなに知ってほしい。」「自分をさらけ出すことが大切なんだ。」という山口さんの主張と存在感は、障害者とのかかわりの少ない生徒にとって衝撃的であり、心に迫ってくるものがあつたようである。「自分をさらけ出すことで、多くの人とつながることができる。」「自分をさらけ出すことで夢が見つかる。」「みんなも自分をさらけだしてほしい。そして、さらけだした人の言葉にしっかりと耳を傾けてあげてほしい。」「今の私の夢は障害のあるなしにかかわらず、みんなが自由に活動でき、みんなが自由に楽しめる空間、場をつくることだ。」という山口さんの心の声を生徒たちは真剣に受け止めていた。障害をデメリットだと思わない前向きさと、動く指一本でパソコンを操り、日本中、世界中の友人とつながり、外の世界へ出て行く圧倒的なバイタリティー、そんな山口さんを支える家族や支援者の思いは、生徒たちの心を揺さぶり、心を動かすには十分であつた。

どの学年の生徒にとっても意義のある時間であつたと確信している。



(3) 生徒の様子

本校の生徒は、普段の集会時から話を聞く態度がよい。しかし、今回の集会ではそれにも増して講師の山口さんから目をそらすことなく、一言の言葉も発することなく、話に聴きいていた。集会後、すべての学年でその感想を書いた。すべての生徒が自分の思いを、よく考え、自分の言葉で書き表していた。山口さんの言葉から、山口さんの生き方から、自分が何を感じ何を学んだのかを素直に書くことができた。

私は、心の教育推進集会で山口さんの話を聞いて、一人一人の命の価値、夢という希望、人生の美しさ、そして誰もが違う光で輝いているということが分かりました。私は、初めて体の不自由な方の話を聞きました。どんな想いで今まで生きてきたのか、どれだけの人に支えられて生きているのか、私たちに伝えたいこと、それが明確に伝わってきました。病気があっても夢を目指して頑張る、生きる力強さが感じられました。「私は多くの人に支えられて生きている。」という言葉が本当に心にしみました。「人は支えられて生きている。」、何度も聞く言葉ですが、今回改めて分かりました。「今までとは同じ自分ではないかもしれない。」と考えると、やりたいことがたくさんでできました。一日一日を大切に、仲間を大切に、命を大切に、これから夢に向かって努力していきたいと思います。

生徒たちは、山口さんの思いをしっかりと感じる事ができた。それ行動に結びつけさせるために生徒一人一人へのさらなる支援が必要である。障害のあるなしにかかわらず、みんなで支え合っていこうとする生徒を育てていきたい。

3 環境教育

集中豪雨、土砂災害、突風など自然災害に見舞われるたび、「これまでに経験したことの無い、想定外」と言われることが多くなった。それだけ、地球の温暖化をはじめとする環境問題が深刻化しているものと思われる。このような中、本校は環境に対する関心を一人一人が持続し、問題解決に向けて活動するための知識、技能を高め、実行力の育成を図ろうと取り組んだ。環境問題の知識的部分は、理科、社会、国語等の教科を通して学び、実践は技術・家庭、委員会活動、また日々の生活の中で誰もが参加し、手軽に取り組むことのできる等身大の活動をめざした。委員会は緑化委員会が中心となり、「学校を緑あふれる環境にしよう」を合い言葉に、「緑の羽募金」、「公園里親事業」に積極的に取り組んだ。募金活動では、募金をお願いするだけでなく、育てた花苗や前年度に収穫した花の種を配布したりして、緑化の関心を高める努力をした。里親事業は守谷市の取り組みであるが、地域とのつながりを大切にしようとの思いから参加し、通学路の花植えやその後の世話をしている。更に持続可能な社会づくりの一員であることの意識高揚を期待し、環境標語の作成をした。「節電」「節水」「ごみの分別」「リデュース・リユース・リサイクル」をはじめ、よりよい人間環境をめざして、「あいさつ」「清掃」「思いやり」などに広がった標語となった。作品は校内の様々なところへ掲示した。



また、これは環境教育の視点ではないが、2学年が校外学習で東日本大震災の被災地を訪れたことは、防災、環境教育両面から考え、意義のある取り組みであったと思う。

環境教育の課題はまだまだ多いが、環境保全意欲の向上と等身大の活動を継続していきたい。そのためには、地域の人材、企業のCSR（社会貢献活動）の活用を工夫したい。

4 終わりに

「みんなが資源 みんなで支援」を合い言葉に学校長を中心に全職員が協力して生徒たちの指導にあたっている。真の共生社会の実現に向けて、御所ヶ丘中学校区で児童生徒を包み込み、人と人がしっかりとつながることのできる教育を進めていくためには、地域の教育力を活用していくことが不可欠である。地域人材を掘り起こし、その教育力を活用しながら、みんなで支え合うことのできる学校を、地域を目指していきたい。